

(大阪東北部)

## 大阪・豊嶋郡条里遺跡

てしまぐんじょうり

- 1 所在地 大阪府吹田市泉町二丁目
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)二月～一九八三年四月
- 3 発掘機関 吹田市教育委員会
- 4 調査担当者 藤原 学・増田真木・西本安秀
- 5 遺跡の種類 条里遺跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代後期～江戸時代
- 7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

豊嶋郡条里遺跡は大阪府北部に展開する千里丘陵の東南裾、標高約3mを測る沖積地に立地する。歴史学・歴史地理学において天坊

幸彦氏をはじめとする先学諸氏によって、当地は吹田市の西域から豊中市にかけて施行された豊嶋郡条里の東限ライン上に位置すると推定されていた。ここに吹田市文化会館建設が予定され、一九八二年一二月に試掘調査が行なわれた結果、

条里の推定ラインに合致する中世水路などが確認され、一九八三年一月から四月にかけて本調査が実施された。

その結果、鎌倉時代を主体とする水路と畦畔が検出された。水路は延長約90mにわたって延び、幅一・一m、深さ〇・五mを測る。両側を護岸した痕跡があり、幅二m前後、最大高〇・八mの堤防を有している。堤防上には杭が打ち込まれ、竹製樋管が設置されていたことが確認された。水量調節のための堰が設けられ、竹製樋管により水路から引水していたものと考えられる。また、水路の下層では、東限ラインに合致する大畦畔が確認され、これに伴い豊嶋郡側に坪境の畦畔及び小畦畔三条、嶋下郡側に小畦畔二条が検出された。中世水田は二～三面みられるが、近世期には水路は埋没し、機能を終えていたと考えられる。

縄文時代後期～江戸時代にかけての土器・木器などの遺物が出土した。特に、中世の遺物が最も多く、土師器・須恵器・瓦器・瓦・中国製陶磁器・漆器・石鍋・下駄・箸・杭がある。木筒は、中世水路東側(嶋下郡側)の水田を形成する遺物包含層から二点出土した。

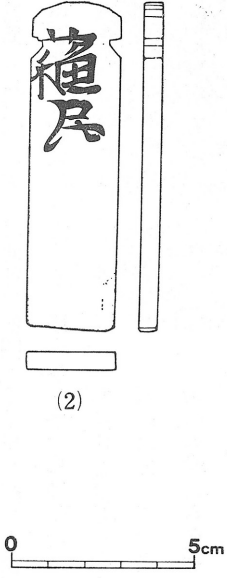
### 8 木筒の积文・内容

(1) 「蕪民将来之子孫

(172)×51×6 019

(2) 「蕪民

90×23×5.5 032



(1)(2)とも蘇民将来札である。(1)は大型の部類に属し、門戸に挿し立てるものと考えられ、(2)は小型で上部に左右からの切り込みがあることから、くくりつけて身につけるものとして使われたと推定できる。どちらも集落等で使用されていたものが流され、当地に埋没したものと考えられる。

なお、今回報告の木簡二点の釈文・内容及び図面精図については、勅元興寺文化財研究所人文考古学研究室藤澤典彦氏に依頼した、吹田市一九八九・九〇年度埋蔵文化財特殊鑑定調査による成果であり、藤澤氏から多くのご教示を賜わった。

9 関係文献

藤原 学「摂津豊島郡条里東限の発掘調査」〔日本考古学協会第四九回総会研究発表要旨〕一九八三年  
 (西本安秀)